

平成31年1月10日

枚方寝屋川消防組合

平成30年の消防統計について

本消防組合における、平成30年（1月から12月まで）の消防統計の速報値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

1 119番通報について（※交野市を含む）

枚方寝屋川消防組合・交野市消防指令センター全体の119番通報件数は67,896件で、前年（66,105件）より1,791件増加し、過去最多となりました。

2 火災について

火災件数は185件（枚方市111件、寝屋川市74件）で、前年（170件）より15件増加しています。

火災による死者は5人（枚方市2人、寝屋川市3人）で、前年（2人）より3人増加しています。

3 救急について

救急出動件数は37,751件で、前年（35,356件）より2,395件増加、救急搬送人員は33,790人で、前年（31,787人）より2,003人増加しており、いずれも過去最多となりました。

4 救助について

救助事故件数は344件で、前年（277件）より67件増加しています。

5 その他事案について

その他事案の出動件数は、大阪府北部地震や台風の影響により3,116件で、前年（2,572件）より544件増加しています。

※ 詳細については別添のとおりです。



【問い合わせ先】

枚方寝屋川消防組合

情報指令課 TEL 072-852-9806

警防課 TEL 072-852-9917

救急課 TEL 072-852-9918

総務管理課（広報） TEL 072-852-9903

119番通報の主な特徴

1 119番通報が過去最多

平成30年の問い合わせ等を含めた119番通報は62,634件で、前年(60,741件)より1,893件増加し、過去最多となっています。

これは、枚方市・寝屋川市の市民の約10人に1人が119番通報をしたこととなります。

また、指令業務を共同運用している交野市からの通報は5,262件で、枚方寝屋川消防組合・交野市消防指令センター全体では67,896件(1日平均186件)となり、前年(66,105件)より1,791件増加しています。

※ 平成27年7月から、枚方寝屋川消防組合と交野市消防本部において消防指令業務の共同運用を行っています。

2 119番通報のうち約6割が救急関係 ※交野市を含む

119番通報のうち、災害事案に関する通報は42,484件で、前年(39,397件)より3,087件増加しています。

そのうち、「救急関係」の通報は40,566件で通報全体の約6割を占めています。

また、「各種問い合わせ」、「悪戯」、「間違い」などの緊急性のない通報が24,804件、他市の通報を転送したものが608件となっています。

3 出動指令を出した事案は全体の約6割 ※交野市を含む

119番通報に対して実際に出動指令を出した事案は41,864件で、通報件数に対する割合は約6割となっており、前年(38,865件)より2,999件増加しています。

4 救急車が到着するまでの間の応急手当を口頭で指導

救命率向上のために、救急車が到着するまでの間、通報者から傷病者の状態を聴取し、心肺蘇生法などを口頭で指導しています。

平成30年の口頭指導の件数は554件で、そのうち「心肺蘇生」439件、「AED」19件、「その他(異物除去、止血法、熱傷手当等)」27件となっています。

また、救急現場においてバイスタンダー(居合わせた方)による心肺蘇生等が大変重要になります。本消防組合では、救急活動に協力して下さった方に対して感謝の気持ちを込めて「勇気こころのカード」を配布しています。

火災の主な特徴

1 火災件数は185件で前年より15件増加

平成30年の火災件数は185件（枚方市111件、寝屋川市74件）で、前年（170件）より15件（8.8%）増加しています。

過去10年間を見ると、平成21年の280件をピークに減少傾向にありましたが、平成30年は前年から2年連続で増加しています。

2 出火原因 1位「放火」、2位「こんろ」、3位「電気関係」

出火原因別に見ると、1位「放火（疑い含む）」41件（22.2%）、2位「こんろ」24件（13.0%）、3位「電気関係」23件（12.4%）、4位「たばこ」19件（10.3%）、5位「焚火等」9件（4.9%）の順となっています。

「放火」は、20年連続で、出火原因の1位となっています。

3 火災による死者は5人、負傷者は45人

火災による死者は5人（枚方市2人、寝屋川市3人）で、前年（2人）より3人増加しています。

死者5人すべてが住宅火災によるもので、そのうち65歳以上の高齢者は3人でした。

負傷者は45人（枚方市25人、寝屋川市20人）で、前年（37人）より8人増加しています。

4 住宅用火災警報器の奏功事例

火災を早期に発見し被害を軽減するためには、住宅用火災警報器の設置が有効です。

また、いざという時に住宅用火災警報器が正常に作動するよう、定期的に作動確認を行いましょう。

平成30年に住宅用火災警報器の奏功事例として報告されている件数は12件となっています。

奏功事例①

たばこの不始末により出火したが、住宅用火災警報器の警報音に気付いた隣人が119番通報をし、被害を最小限にとどめた。

奏功事例②

台所でやかんに火をかけていた住民が目を離した間に出火したが、住宅用火災警報器の警報音に気づき、初期消火に成功した。

救急の主な特徴

1 救急出動件数、救急搬送人員がともに過去最多

平成30年の救急出動件数は37,751件（枚方市22,513件、寝屋川市15,100件、その他138件）で、前年（35,356件）より2,395件（6.8%）増加して、過去最多となっています。

また、救急搬送人員は33,790人（枚方市20,141人、寝屋川市13,587人、その他62人）で、前年（31,787人）より2,003人（6.3%）増加し、過去最多となっています。

1日の平均出動件数は約103件で、救急隊1隊あたりの1日の出動件数は約6件となっています。

※ その他とは、第二京阪道路、交野市等へ出動した件数です。

2 事故種別救急搬送 1位「急病」、2位「一般負傷」、3位「交通事故」

事故種別ごとの救急搬送人員は、1位「急病」23,017件（68.1%）、2位「一般負傷」5,136件（15.2%）、3位「交通事故」3,010件（8.9%）の順となっています。

3 救急搬送人員の約6割が65歳以上の高齢者

年齢区分別による搬送人員は、65歳以上の高齢者が19,757人で、全体の約6割を占めています。

4 ドクターカー出動件数

平成29年4月から救命率の向上を図るために、医師が救急車に同乗し、救急現場にて医療行為を行うドクターカーを運用しています。（平日の9時から17時まで）

平成30年の出動件数は376件（枚方市203件、寝屋川市137件、その他36件）で、1日の平均出動件数は約1件となっています。

事故種別では、1位「急病」263件（69.9%）、2位「一般負傷」44件（11.7%）、3位「労働事故」26件（6.9%）、4位「交通事故」23件（6.2%）の順となっています。

ドクターカーの出動項目別では、「心肺停止」120件（31.9%）、「急性脳卒中」79件（21.0%）、「高エネルギー外傷（交通事故や高所からの転落）」32件（8.5%）、「急性心疾患」・「呼吸・気道の障害」28件ずつ（7.4%）となっています。

※ その他とは、第二京阪道路、交野市等へ出動した件数です。

救助の主な特徴

1 救助事故件数は67件の増加（1日平均約0.9件の出動）

平成30年の救助事故件数は344件で、前年（277件）より67件（24.2%）増加しています。

そのうち、救助隊が活動した件数は324件で、前年（263件）より61件（23.1%）増加しています。

2 救助人員は前年と比較して5人の増加

平成30年の救助人員は191人で、前年（186件）より5人（2.7%）増加しています。

3 事故種別救助事故件数 1位「建物等の事故」、2位「火災」、3位「交通事故」

事故種別ごとの件数は、1位「建物等の事故」67件（19.5%）、2位「火災」63件（18.3%）、3位「交通事故」47件（13.7%）、4位「自然災害」22件（6.4%）、5位「機械事故」17件（4.9%）の順となっています。

特に、「自然災害」は、大阪府北部地震や台風の影響により前年（1件）より21件増加しています。

その他事案の主な特徴

1 地震や台風の影響により「その他事案」の出動が増加

平成30年のその他（非火災）事案は3,116件で、前年（2,572件）より544件（21.2%）増加しています。

特に、大阪府北部地震や台風の影響により、「警戒出動」、「吹鳴事故（火災感知器の作動）」、「風水害」による出動が増加しています。

2 PA連携の出動が増加

心肺停止状態などの救急事案に対して、傷病者の救出・救護を迅速に行うことを目的として、消防隊と救急隊を同時に出動させる連携活動をPA連携といいます。

救急件数の増加に伴って、「PA連携」が増加傾向にあり、平成30年の件数は1,900件で前年（1,790件）より110件増加しています。

※ PAとは、消防ポンプ自動車（Pumper）、救急車（Ambulance）の頭文字です。